

山と電気の風景論 ③〇

富士山, 鳳凰山~電力東西連系, グローバル&ローカルな山岳ライン~

セリングビジョン(株) 代表取締役 岡部 秀也

向き合う「最高峰人気」と「観音様信仰」の修験山

今回は百名山の中でもグローバルに著名な最高峰・富士山と、ややローカルだが風情ある鳳凰山(観音岳)の修験道ヤマレコである。両座は近接し、互いの山がくっきり見上げ(見下げ)られる。

富士山には、今年7月の三連休の猛暑日に出かけた。前回の富士登山は、30代のとき。電力会社で国際交流を担当した8月、お盆休み頃の交通大渋滞期であった。登山中、知り合ったカナダ人と一泊2日の珍道中だった。今回も山小屋は満員であったが、驚いたのは登山者の半分以上が海外の方々だったことだ。中国語、英語、韓国語などが飛び交っていた。サッカー・ワールドカップで優勝し盛り上がったフランス人団体とも出くわした。

一方、鳳凰山(観音岳)は、薬師岳、地藏岳と鳳凰三山として、地元で伝統的に親しまれている。山を神聖視し、山で修行し、険しい山中に観音様を仰ぐ。修験道は山岳信仰が仏教と習合し生まれたと言われるが、聖なる巨岩群と一体化した観音菩薩への自然信仰が結びつき、紅葉と白岩に初秋の風情を感じた。

両座は、糸魚川~静岡のフォッサマグナ付近のラインに位置し、日本の東西連携の要になっている。

富士山<標高3776m>平成30年7月15日~16日

上りは富士宮口から、下山は御殿場ルート。標高差1398m、往復12.9km。

富士山を目指す五合目からの人気ルートは4つある。前回は、山梨県側の吉田口、須走口のルート、今回は静岡県側の富士宮・御殿場ルートを踏破した。

【行程】

- 7月15日
 - 11:30 富士宮口五合目(標高2400m。以下同様)着(テント受付で入山券千円寄付)。
 - 12:00 発富士宮口五合目2400m。
 - 12:20 富士宮口新六合。火山砂噴火瓦礫の道。
 - 12:22 六合目雲海荘(2493m)。
 - 13:10~13:20 新七合目御来光山荘2790m。
 - 14:02~14:20 元祖七合目山口山荘で3000m越え。



朝日岳に御来光登山者集結。4:30



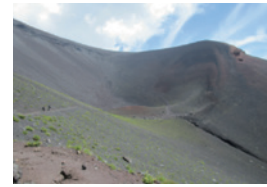
影富士。富士山頂上から青木ヶ原樹海を覆う。先は南アルプス



剣ヶ峰頂上。右は、新田次郎も勤務した旧富士山測候所

- 14:55 宿泊山小屋、八合目池田館(3220m)着。宝永山火山口眺望。遠方に雷鳴轟く。
- 17:00 定番カレーの食事。若い社会人らと山談義。
- 19:15 日の入り。雲海の夕焼けを撮影。
- 7月16日
 - 2:00 起床し、2:40発。ヘッドライトとストック。肌寒くジャンパー、ベスト着用。
 - 2:40~2:45 9合目。万年雪山荘(3460m)。きつい岩場登坂。
 - 3:20~3:25 胸突き(3590m)。パテた団体ツアー群を追い抜く。ベスト脱ぐ。
 - 3:58 富士山頂上浅間大社着。山頂の鳥居にタッチ。浅間大社奥宮で参拝。
 - 4:15~4:40 朝日岳で御来光を仰ぐ。
 - 5:18 須走口・吉田口。
 - 5:25 富士山奥宮。商売繁盛、無病息災の守札を拝受。
 - 6:30~7:10 富士山頂上の剣ヶ峰。写真撮影で海外登山者らと長蛇の列に並び。団体

ツアーは、三連休にはお鉢回りは混み中止。単独登山は自由。



- 7:25~7:35 見晴らし尾根で写真。影富士。青木ヶ原樹海、南アルプス、ハヶ岳、北アルプス遠景。
- 7:50~8:05 御鉢回りを完了し、頂上山小屋で休憩。ホット珈琲、山バッチ。
- 8:07 御殿場コースの鳥居をくぐり下山開始。
- 8:20~8:40 赤岩八合館(3300m)。健脚の皇太子殿下の宿泊写真。主とラーメン談義。
- 8:54 須走館。ここから分岐点を富士宮コースに進路を変え須走、宝永山回りの火山灰・噴火小石の登山砂道を下山。
- 10:15~10:30 雲海荘着。ビールで一息。
- 10:40 下山。強烈な日射しで猛暑実感。レストハウス休憩。
- 11:30 専用バス発。「時の栖」で汗流す。

宝永火山口縁を歩行。1707年に大噴火。「いま富士山の規模噴火が起きれば、東京都心部での降灰量は10センチ以上」(気象庁気象研究所)

鳳凰山<標高2840m>平成27年9月26日~27日

標高差、夜叉神コース上り1460m、御座石コース下り1775m。往復17.4km。

【行程】

- 9月26日
 - 7:00 新宿~8:30甲府着(JR特急あずさ)。
 - 9:00 甲府~10:10夜叉神峠。(山梨交通バス)。
 - 10:16 登山口発。
 - 11:08 夜叉神峠小屋着、11:12発。
 - 12:20 休憩昼食、12:25発。
 - 12:30 杖立峠。
 - 13:48~13:58 苺平で休憩。
 - 14:28 南御室小屋。料理は多彩で豊富。周囲は紅葉が広がる。宿泊者10名とひっそり静寂。
- 9月27日
 - 5:58 南御室小屋発。
 - 6:55 薬師小屋着。



鳳凰三山の地藏岳オベリスクへの縦走路



薬師岳頂上

- 7:10 薬師岳着。
- 7:35 観音岳着、7:48発。
- 8:18 地藏と鳳凰山荘分岐点。
- 8:48~8:55 鳳凰山荘。
- 9:35 御座石鉱泉への途中休憩。9:40発。
- 9:58 燕頭山(2105m)。
- 10:50~10:55 休憩。
- 11:54 御座石温泉着。15分温泉で汗流す。
- 12:30 専用バス。二名貸し切り韮崎駅へ。



鳳凰山の山頂で岳友の島矢氏と。左奥は北岳

東西電力の周波数を分けるフォッサマグナ



東西周波数50/60ヘルツ富士川分岐付近の富士山<奥>、鳳凰三山<手前>。甲斐駒ヶ岳から撮影

日本の電気の流れを東側・西側に区分するとするのは、周波数(交流電流の秒間の振動波数)の違いからだ。富士川の東方が50ヘルツ(Herz=Hz)の東京電力、西方が60ヘルツの中部電力エリアである。

この分岐線は、日本列島の山岳を形成するプレート造山運動による中央構造線フォッサマグナ(糸魚川~静岡)ラインにほぼ類似している。東側は東京電力、東北電力、北海道電力、西側は中部電力、北陸電力、関西電力、中国電力、四国電力、九州電力、沖縄電力と分岐。周波数が異なるため、電力の需給ギャップを埋める広域電力融通は周波数変換所を通じて周波数をエリアで同一にして送受信する。

この周波数を分けるエリアの境として山岳でみれば、富士山の山梨県側、静岡県側、鳳凰山の山梨県側、隔てて長野県側と分けられ、周波数が区分される。もともと東京電燈が50Hz仕様のドイツ・AEG製発電機を導入し、大阪電燈が60Hz仕様の米国・GE製発電機を採用した。これが次第に各地に広がり東西の周波数に分かれた。東西の周波数を変換するためフォッサマグナの周辺近傍に東京電力新信濃、中部電力東清水、電源開発佐久間の3つの変換所計120万kWの電力融通が可能で、さらに増設中である。